

藻苔の対策資材

コケチタン

特 長

2.5Kg×8袋

バイオグリーン研究所で、長年の研究の成果として「土壌酵素と光触媒の反応」により、グリーン上の「藻」や「苔」を抑制する技術を開発致しました。この方法は、環境にやさしく芝草の病害菌にたいしても抑制効果が期待できます。

(土壌改良剤)

成 分

- 土壌酵素助剤
- 酸化チタン

使用方法

1000リットルタンク車にベントグリーンで半袋(1.25Kg)~1袋(2.5Kg)、高麗グリーンで1袋(2.5Kg)~2袋(5Kg)を投入して1m²あたり1リットル散布をして下さい。使用直後に十分な散水をして下さい。

補 足

藻、苔、茸や病害の出やすい場所には、あらかじめ(2月~3月頃に)予防的に使用されておくことをお勧め致します。

また、効果が弱かったところには、1~2週間の間隔を開けて、連続した使用をされると効果的です。

使用上の注意

本品は芝草用なので、絶対飲まないで下さい。

高温時の使用で、葉が褐変することがあります。分散、回数使用をして下さい。

素手で使用すると、手が荒れることがあります。ゴム手袋を使用して下さい。

衣服に付着すると、変色することがあります。ご注意下さい。

他の薬剤との混合は避けて下さい。

藻・苔の発生しやすい条件

- ①散水過多による過湿。(遠因；ドライスポット用保湿剤の使い過ぎ等々)(夜間散水による表層の停滞水)
- ②表層の固化による透水性不良。表層に停滞水がある。
- ③風通しの悪いグリーン。表層の乾きが悪い。
- ④リン酸過多(リン酸肥料の使い過ぎ、蓄積)の土壌。
- ⑤散水用の水の汚れ。(クラブハウスなどからの流水には、有機リン系の洗剤が使われています。)
- ⑥リン系の殺虫剤、リン系の除草剤の使い過ぎ。
- ⑦液肥に偏った、表層施肥のメンテナンス。
- ⑧日照時間の短い、日当たりの悪いグリーン。
- ⑨低刈りで、地表まで日光が届き易いグリーン。
- ⑩芽数を減らした、球の走りを重視したグリーン。

光触媒

光触媒 ひかりしょくばい Photo-Catalyst

酸化チタン粒子を水中に分散させて光を照射すると、水が分解されて酸素と水素が発生する現象(→水素エネルギー)は約25年前に発見された(本多-藤嶋効果)。この反応で酸化チタンは触媒的な働きをするのでこれを光触媒という。最初は光エネルギーによる水素の製造法としてエネルギー問題の観点から注目されたが、近年酸化チタン表面では有機物が分解されたり殺菌作用があることが見出され、殺菌・消臭材料への応用が盛んに行われている。酸化チタンに光が当たると電子が放出された後に正孔(ホール)が生じ、これが水分子から電子を奪いラジカルが発生する。このラジカルが有機物を分解する。抗菌性のタイルや便器が市販され、消臭繊維への応用も進められている。また、防汚効果を生かして、ビルの外壁、ガードレール、照明器具にも利用されている。さらに、光触媒でコーティングした物体の表面では有機物が分解されるため、水に濡れやすい性質(親水性)になり水滴が付着しない。これを利用して、曇らないガラスや鏡をつくることができ、浴室用の鏡、自動車のバックミラーなどにも応用できる。

(現代用語の基礎知識2002より)

お問合せ先・販売店

株式会社 大谷金太郎商事
神奈川県厚木市金田 834-2
電話 046-224-7363

バイオビジネス
普及会